

令和4年度第3回大洗町地域公共交通会議

議事録

日時	令和5年3月23日(木) 午後1時30分～午後3時30分
場所	大洗マリーナ 2階 研修室
出席者	関会長、飯田委員、山戸委員、大里委員、小林(健)委員代理、飛田委員、鬼沢委員代理、栗田委員、服部委員、小林(美)委員、大川委員、岡村委員、長谷川委員、高柳委員、國下委員、赤城委員代理、富山委員代理、北出委員代理、山本委員代理 事務局：大洗町まちづくり推進課 海老原課長、菅谷係長、深谷主事、田中主事 株式会社アルメック VPI 内山、和田、中島 随行者 3 名
次第	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 協議事項 (1)大洗町地域公共交通計画策定に向けた基礎調査結果の報告および意見交換 ①公共交通の特性 ②公共交通の課題 ③公共交通に関するニーズ (2)令和5年度事業計画(案)及び歳入歳出予算(案)について 4. 閉会
配布資料	① 次第 ② 出席者名簿 ③ 席次表 ④ 資料1_大洗町の公共交通の特性 ⑤ 資料2_大洗町地域公共交通に関する基礎調査結果(概要版) ⑥ 資料3_公共交通に関するニーズ把握のための質問例(他自治体の事例) ⑦ 資料4_令和5年度事業計画(案)及び歳入歳出予算(案)について ⑧ 参考1_大洗町地域公共交通会議設置要綱 ⑨ 参考2_委員名簿

議事要旨

1) 基礎調査結果について

- p7、85 歳以上人口の分布に対し対応していくことを図中だけでなく文章にも示す。
- p18、85 歳以上人口の分布で交通空白地域を分析する。
- p24、課題(2)の文章中に駐車場からまちなかへの移動手段について追記する。
- p25、課題(6)の文章中に「受益者負担」の文言を入れる。
- p28、事例集に水戸市の 1,000 円タクシーを追加する。

2) アンケートについて

- グリーンスローモビリティについて住民にアンケートでニーズを訊くか検討する。
- スクールバスや企業バスの活用も視野に入れつつ、ニーズ調査の中で掘り起こすことを検討する。
- 大洗鹿島線で通学している生徒の利用実態調査を検討する。
- 観光業界に対しても調査を検討する。
- 自家用車から公共交通に転換する条件の設問は選択肢で答えられるようにする。
- アンケートの設問内容や対象者、調査方法は実施前に委員に確認する。

3) その他

- 次回会議の資料に鉄道やタクシーの調査結果を入れる。
- 秋に成立が予定されている活性化再生法の改正法案を確認し計画に反映する。

議事録

1. 開会

(開会)

2. 会長挨拶

○第2回会議から約1年ぶりの開催となった。時間が経っているので過去の会議を振り返ると、第1回では委員の方々から大洗町の公共交通の現状の問題点や課題を聞き整理した。第2回では課題への対応策等幅広く意見を貰った。今回は過去2回を踏まえつつ、基礎調査を行ったので報告を行い、特性や課題について意見を頂きたい。

○新型コロナウイルス感染症の流行から3年が経ち情勢が落ち着いてきた。観光客も増えてきている中で、地元住民だけでなく観光客の足としても公共交通の必要性がある。また議会からは高齢者の足の確保を求められている。委員の皆様からの忌憚のない意見を賜りたい。

3. 協議事項

(1) 大洗町地域公共交通計画策定に向けた基礎調査結果の報告および意見交換

(事務局が資料1、資料2、資料3を説明した)

○事務局の資料説明を踏まえ、委員の皆様にご意見を伺いたい。資料2・P27 の(4)役割分担については計画の方向や施策が決まってから考えるものである、(1)特性、(2)課題、(3)ニーズについて議論したい。(会長)

①公共交通の特性

○人口増減の図について、前原住宅付近で増加が見られるのは何か。(会長)

⇒海沿いで宅地開発があり、人口が増えた場所がある。(事務局)

○85 歳以上の割合を見ている図があるが、何故 85 歳なのか。(会長)

⇒事前に行った庁内での打合せにて、80 代で免許を返納する人が多く、また介護申請を行う平均年齢が 83 歳という話があったため、免許返納や介護を想定して 85 歳以上を参照した。(事務局)

⇒付け加えると、免許返納は平均的におよそ 80 歳前後である。免許の取得率は 24～64 歳で 92%、65 歳以上で 6 割程度となっているが、70 代まではまだまだ若く運転をする。(委員)

○免許返納者に対して町から何かしている取組はあるか。(会長)

⇒町内循環バスの回数券 11,000 円分を交付している。ただ、交付を受けた人からバスが使いづらいという意見もあり、今後公共交通会議の中で良い方法を考えていきたい。(委員)

⇒交付したうち使用率はどの程度か。(委員)

⇒手元に正確な数値は無いが、半数程度ではないか。後ほど確認する。(委員)

⇒ざっくりとしたデータだが、2020年～2022年の3年間で1,733枚、2022年は571枚の使用があった。(事務局)

○タクシーが担う役割が大きいと感じる。「なっちゃん号」が走っていない昼間の時間帯はタクシーで担えないか。水戸市で行っている1,000円タクシーは、昼間の閑散時間帯にタクシーを半額で市に借り上げてもらって実施している。高齢者でバス停まで歩いて行くのが大変な人でもタクシーは玄関まで行くことができ、またバスの運行が終わった深夜でも対応ができる。ただ通常のタクシーでは割高になってしまう課題がある。また、東京で導入が進むJPN TAXIは車いすを乗せることができるが、茨城県では補助金が少ないため難しい。(委員)

⇒秋に役割分担を具体化していく中でそうした考えを取り上げていく。(会長)

○85歳以上人口の分布に対して対応していくことが重要である。図中に示されているが文章にも示してほしい。(会長)

○交通空白地域の把握の仕方について、バス停圏を100mと300mにしている理由は何か。(会長)

⇒一般的にはバス停圏を300mと設定して考えるが、高齢者へのヒアリングで高齢者はバス停まで歩くことが大変という意見があったことから、高齢者を想定して100mも示している。(事務局)

⇒交通空白地域を人口分布で見ているが、85歳以上人口の分布を重ねた分析もあると良い。(会長)

○今回の資料でバスについて分析されているが、鉄道やタクシーの調査は予定しているか。(会長)

⇒資料には載せていないが調査はしている。(事務局)

⇒役割分担を考えていく上で必要な情報であるので、次回会議の資料には鉄道やタクシーの利用者層や利用実態も掲載してほしい。(会長)

②公共交通の課題

○資料2・P25の「(6)持続可能な公共交通事業」の中に乗務員不足が挙げられており、他の自治体ではあまり出てこないのが問題意識が高いと感じる。路線バスでは乗務員不足が逼迫してきており、民間事業者としてはその中で採算性を考えていかなければならない。町内の路線を無くすことは無いが、ダウンサイジングとして減便する可能性がある。ただ、減便によって利用が減りさらに減便という悪循環も考えられる。町民にも支持されている路線であるので、町からも協力いただきたい。(委員)

○町内に駐車場が多いが、そこからまちなかに来てお金を落としてもらうことが大事だと考える。ゴルフカートのようなものの導入も検討してはどうか。駐車料金を取って原資にする等が考えられる。(委員)

⇒駐車料金は土日については町で貰うようになった。各種対策に充てていく。駐車場からの移動手段については課題(2)の文章中に追記する。(事務局)

○町の一番の課題は超高齢社会になる中で高齢者の足をどうするかである。バスに乗れない人向けにドアツードアの移動手段が注目されてくる。タクシーは高額だがそれを使いやすくしていく取組が求められる。他自治体でよくあるのはデマンド乗合タクシーとタクシー券だが、一括定額運賃制のタクシーも選択肢として考えられる。水戸市には中心部の外側に交通空白地域があり、そこで 1,000 円タクシーが運行されている。デマンド乗合タクシーは乗り合わせるルートを決めるシステムの導入に高い費用がかかり、オペレーターの人件費やメンテナンス費用もかかる一方で、利用料金が安いので財政面が苦しい。自治体にとっては持続可能性が大事である。そこで水戸市で行っているのは、周縁部を 11 ブロックに分けてブロック内は片道 500 円、中心部への移動などブロック外へは片道 1,000 円とし、閑散時間帯のタクシーを市が借り切っている。借り切る費用は 1 台 2 万円だが、5 人が往復利用すれば 1 万円は収入があり支出を減らすことができる。運行サービスは通常のタクシーと同様なので、無線で呼び出すことから専用のシステムを整備するコストもかからず、利用者にとっても使い勝手が良い。水戸市では行くことのできる目的地を指定している。結城市では福祉課が所管であることから年齢制限を設けて高齢者のみにしており、デマンド乗合タクシーでは年齢制限は出来ないが一括定額運賃制であれば可能である。いずれも既存の路線バス等と競合しないようにしている。1,000 円に拘らなくても良いが、一括定額運賃制のタクシーを推進しているので、こうした新しい制度も検討してほしい。グリーンスローモビリティ(ゴルフカート)については、道が狭く密集しているところに巡回させることが考えられる。そうした住民向けと合わせて、観光でも喜ばれる。(委員)

⇒参考にさせていただく。水戸市の 1,000 円タクシーも事例として取り上げる。水戸市ではブロック制とのことだが大洗町で実施するとしたら 1 ブロックになるか。(会長)

⇒自治体ごとにやり方がある。水戸市では交通空白地域の公民館に常駐しており、大洗町でも同様のやり方が考えられる。既存の路線バス等と競合しないよう制限しつつ展開する必要がある。(委員)

○課題(2)の「広域的な交通サービスを充実させる」というのは、今以上のものを増やしていく必要があるという意味か。(委員)

⇒そのイメージで考えている。今は大洗に来る高速バスが無いので、考えていきたい。(事務局)

⇒延長運行してフェリーに接続する高速バスが少し前まであったが、コロナ禍でのダイヤ改正で茨城交通担当便とフェリーの時間が合わなくなってしまい、運休となっている。まだ再開の目途は無い。日立から成田空港へ向かう高速バスを大洗駅に入れる免許をコロナ禍直前に取得したが、成田空港の利用が戻っていないため見通しが立っていない。自費運行であるため時間がかかるがやっていきたい。(委員)

○観光については地元の協会はどのように考えているか。(会長)

⇒コロナが落ち着き観光客が戻ってきており、インバウンドも増えてきている。空港からのアクセスは是非やってほしい。また一部の飲食店から夜間のタクシーが利用できないためどうかしてほしいという要望があった。(委員)

○高齢者についての話がもあったが、社協から買い物支援についてはどうか。(会長)

- ⇒町福祉課から委託を受けて買い物ツアーを実施している。月に4回で各日午前午後の2回。利用者は独居の方で80代以上がほとんどである。行き先は要望を受けて設定しており、食材だけでなく季節の変わり目には服なども購入できる店にしている。ただこれだけでは日常生活の買い物は足りないため、別途移動手段の充実が必要である。タクシーは年金暮らしの人には厳しい。2～3年前に1ヶ月間のみの実験として役場や駅、医院、歯科、金融機関を巡回する無料のワゴンを運行したところ大変喜ばれたが、財源が問題であった。受益者負担は原則として、また既存のバスやタクシーに悪影響が無いようにしていく必要がある。(委員)
- ⇒課題の(6)持続可能な公共交通事業の中に受益者負担も入れる。(会長)
- 課題の中に渋滞についてのものが無いが、目途がついたということか。(委員)
- ⇒渋滞についてとは具体的には何か。(会長)
- ⇒土日や正月等観光シーズンの渋滞で、もうバスに乗らないという人が出てきてしまう。公共交通ではないかもしれないが町としての課題である。(委員)
- ⇒公共交通の話として捉えるのは難しいが意見として受ける。(事務局)
- ⇒渋滞対策については、警察としては今後大洗町に駐車監視員を入れ違法駐車を検挙していく。正月についても町と連携して違法駐車対策を行っている。(委員)

③公共交通のニーズ

- 資料3のアンケートの質問例に公共交通の利用条件が挙げられているが、ダイヤ、運賃、ルートについては事業者への意見でも多いところである。バスの良いところ、ニーズが合っているところとして、通勤通学時に長い路線だと乗り継ぎが無い点があり、乗り継ぎにすると利用者が大きく減ってしまう。水戸から一本で行けるので訪日外国人観光客にも分かりやすい良さもある。長く走るのもニーズに応えられていると感じている。(委員)
- 弊社はフェリー会社なので観光の観点になるが、町のことを考えると観光利用で乗船する人が町内にも行けるようになると良い。駅とフェリーターミナルの間にグリーンスローモビリティなどを走らせ、町内を観光してから乗船時間にフェリーターミナルに着くように、もしくは下船後に町内を観光してから帰宅するなどができるようにするなど、町内に留まってもらう方法があると良い。(委員)
- ⇒フェリー利用者にアンケートすることは可能か。(会長)
- ⇒前向きに検討する。(委員)
- グリーンスローモビリティは水戸で運行されたことがあったが、デメリットとしては開放感がある裏返しとして危険性があり、また一車線しかない幹線道路だと渋滞の発生源になり得る。日立では住宅街を走っていて成功しているように見える。グリーンスローモビリティについて住民にアンケートでニーズを取ってみるのも良いと思う。(委員)
- 大洗は通勤で水戸やひたちなかへの流出が多く、通院も水戸が多いことから、これがニーズとしてあると言える。(委員)
- 運転手不足があるので本数や車両を増やすのは難しい。スクールバスや企業バスの活用も視野に入れつつ、ニーズ調査の中で掘り起こしてもらえればと思う。(委員)
- 活性化再生法の改正法案の成立が秋に予定されており、計画内に入れることで貰える補助

- 金もあるので、活用すると良い。(委員)
- 学校では、町の北側では「海遊号」を使っていないが南側では通学に「海遊号」と「なっちゃん号」を利用している。近い将来一校に統合するのではと考えており、その際にどうバスを活用していくか考えていきたい。(委員)
- アンケートの対象者や調査方法は設定しているのか。可能なら事前に見せてほしい。(委員)
- ⇒アンケートの手法については今後検討していく。実施前には委員の皆様を確認してもらう。(事務局)
- 大洗鹿島線で水戸から大洗高校や大洗町から水戸方面へ通学している生徒の実態が気になるので調べてほしい。また、大洗鹿島線の沿線人口が減る中で観光が重要だと考えており、沿線自治体とも連携していきたい。渋滞の話があったが、車と公共交通で差別化して公共交通にメリットがあるようにしてほしい。駅から観光地のある海沿いまで遠いという意見を聞く。(委員)
- タクシー業界としてはNKタクシーがひまわり交通になった際に 12 台が 5 台に減り迷惑をかけている。早急に対応したい。(委員)
- 大洗では観光が重要である。他の観光地でも観光客が戻るときは一気に来ると構えている。そのときに公共交通に誘導できるようにしてほしい。(委員)
- ニーズ調査結果が出ると公共交通との“谷間”が分かる。そこを福祉部門でどう手当てできるか考えていきたい。(委員)
- 観光についてもしっかり調査してほしい。大きいホテルだと送迎バスで駅まで送ることもあがるが人手不足である。公共交通と連携していけると良い。(委員)
- 地元の業者をどれだけ使っていただけるかが重要である。細やかなニーズを拾っていけると良い。(委員)
- 質問例にある自家用車から公共交通に転換する条件は、自由記述で訊くと回答が難しいので、選択肢で答えられるようにした方が良い。(委員)
- 今日の意見を踏まえて事務局でアンケート案作成・対象者の設定を行い、実施前に各委員に確認する。(会長)

(2) 令和5年度事業計画(案)及び歳入歳出予算(案)について
(事務局が資料4を説明し、承認された)

4. 閉会

○委員の皆様から大変貴重な意見を多く頂けた。観光と住民の両立をしっかりと考えていく。また、それぞれの役割分担のもとに、身の丈にあった持続可能な公共交通を体現していく。
(事務局)

(閉会)